



『さあ、手を取り合って行動しよう！』

『世界を変える行動人』である私たちのミッションは、ビジョン声明にあるように、持続可能なよい変化を生むために行動することです。ビジョン声明の英文はTogether, we see a world where people unite and take action to create lasting change- across the globe, in our communities, and in ourselves.です。文頭に注目してみると、Together（一緒に）という単語で始まっています。日本語訳の中でTogetherは「わたしたち」「人々が手を取り合って」という文言で表現されているのかと思います。

では、「わたしたち」とはだれを指すのでしょうか。まずロータリアンです。それだけでしょうか？そこにはローターアクターを始め、ロータリーの奨学生や学友といったロータリーファミリーのみなさんの存在があります。地域社会の方々もいます。そして、ロータリアンの家族の方々もいます。「わたしたち」の幅が広がれば広がるほど、手を取り合って、共に行動する仲間が増えます。

以前、雑誌The Rotarian（現在の雑誌Rotary）で、食料が不足して困っているアメリカの田舎町で行われた奉仕活動の記事を読んだことがあります。週末になると、ロータリアンと地域の子供たちはバスで農園に出かけます。農家の人たちの協力を得て、種の撒き方や苗の育て方を習い、子供たちは農作業に取り組みます。週末に定期的に農園に通って、作業をし、農作物の成長の過程を見て学びます。収穫の時が来ると感謝して刈り取り、必要としている人々に届けます。最初は小さなプロジェクトでしたが、運搬の車を出す人、肥料を提供する人、土地を提供する人などが加わっていき、ついには市を上げての大プロジェクトとなり、この町では食糧難に苦しむ人がいなくなったという話でした。

私たちが現在行っている奉仕活動の中に、あるいはこれから取り組もうとしている奉仕活動に、地域の人々やロータリーファミリーを巻き込んで一緒に活動できるものがないでしょうか。ロータリーの活動に参加して、手を取り合って一緒に行動してみることが、ロータリーを知り、理解していただく何よりの機会になるように思います。おそらくこれがロータリーの公共イメージ向上への一番の近道と言えるかもしれません。その結果として、ロータリアンの仲間が増えていき、奉仕の扉は私たちの前にさらに大きく開かれるでしょう。

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 服部 陽子（東京広尾RC）



会員増強 MISSION POSSIBLE

コロナ禍に乗じて、「THE ROTARY MOTIVATION」(A4判160頁)という標題のテキストを作りました(「ロータリーの友」4月号42頁参照)。会員増強や組織課題についても若干の模索を試みているので、それを基に以下の通りまとめさせていただきました。

●ネットネイティブ世代がやってくる

私たちの子どもや孫のような世代がロータリーを担っていく時代になる日もそう遠くないと感じるようになってきました。義理人情を絡めた会員増強策が、ネットネイティブな若年齢層や女性層に対して通用していきましょうか。今のロータリアンはブーマー世代が中心ではないかと思いますが、それに続くミレニアル世代(Y世代)やZ世代の思考や感性の違いを理解しないと、彼らを入会や在籍に結びつけられるのか疑問です。世代の空白をつくらないように、年齢バランスのとれたクラブ会員構成を保ち続けていくことが重要になると思います。若年齢会員の増強は世代交代につながります。

●日本の女性会員比率は世界最下位レベル

「THE ROTARY MOTIVATION」の特別編集として、新規に作成した「ロータリーと女性」という標題のテキスト(パワーポイント版10頁)を別添付します。女性会員増強に向けたセミナーや例会などで、どなたでも自由に使うことができます。

一部をご紹介しますと、S-05頁は、ロータリー存在国別の女性ロータリー会員比率を整理したデータです。日本のロータリー会員総数は世界で上位3番目であるのに対して、女性ロータリー会員比率は世界で下位3番目となっています。最下位の二国は国土も人口も僅かなので、日本は実質的に最下位と言っても良いような状態だということわかります。日本の女性ロータリー会員比率が約7%だという認識はあっても、世界の中でのポジションについては、あまり認識されていないかもしれません。

●MISSION POSSIBLE

会員増強は、クラブあるいは会員個人が、自身の問題として意識を定着化していくことが始まりだと思います。地域社会に向けた奉仕活動をしようという際でもポリオを根絶しようという際でも、問題意識がなかったら戦略も行動も何も起こらないでしょう。目先の会員維持対応も危機感に満ちた課題ですが、会員増強の手法自体を戦略的に位置づけていくことが不可欠だと思います。特に若年齢層や女性の増強を考えた時には、上述したようなデータを読み解いて、自分たちに可能な作戦(MISSION POSSIBLE)を計画していくこと、そこから先は熱いハートに切り替えて取り組むことが必要になると思います。そして常に、プロセスや結果を検証していくという蓄積も忘れてはならないと思います。

第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 関 邦則(長野RC)